2年1組　国語科学習指導案

令和8年10月23日(金)

学習指導者　武藤　琉偉

1　単元名　　私の推し表現をカードで紹介しよう

漢詩の風景　「国語2」(光村図書)

2　校内研究との関わりについて　※やまなし教育創造推進事業

研究主題　　**「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する児童生徒を育成する」**

～組織でQU(WEB)・NINO・学調等のエビデンスやICTを活用した自己調整学習を通して～

⑴ 標準化検査WEBQUを活用して組織で「安定と活性化」を両立する学級集団づくりを実現する

・班の3つの機能で安定をつくる（① 居場所　② 目標を達成する組織　③ 非認知能力の育成）

⑵ 認知能力検査NINOで自分の特性(強み・弱み)を理解し、単元ごと学びを自己調整する

・学びとる力(記憶力、言語能力、数的能力、処理速度、思考力)を活用して深い学びにつなげる

⑶ 単元を貫く言語活動でめあてを達成し、主体性・活性化を向上する

・個別最適な学びと協働的な学び　（※生徒の多様性を認め、尊重する単元内自由進度学習）

→① 動機付け　② 学習方法　③ 自己調整・粘り強さ

※エビデンスを活用した単元内自由進度学習でめあてを達成し、主体性・活性化を向上する。

（学習の個性化・指導の個別化）

・「学習キャリアパスポート(GKP)」の活用

・教研式　認知能力検査NINO、標準学力検査NRTを活用

・教職員の合理的配慮を一元化した「座席表」活用（WEBQU、NINO、NRTのデータ）

・協働的な学び　（※現状を変え未来を創り出す力）

→① 目標達成のための交流　② 違いを追求し、学びを広げ　③ 深め・創造する

⑴ WEBQUのデータを活用する　※生徒・学級の実態（令和8年6月16日実施）

※10月現在の面談・観察の結果から。(未実施者3名、特別支援学級在籍1名)

学級生活満足群4名

①学級の型　　少人数特別学級

②集団の発達段階　　①緊張・混沌→②小集団→③中集団→④大集団→⑤親和的集団

③ルールの定着　　5内在化。教師の指示がなくても注意し合う

4教師の指示が少なくてもほぼ適切に行動

3教師が指示すれば行動する

2指示に従うが時間がかかる

1反発され教師の支持が通りにくい

④リレーション　　5親和的。全体で本音の共有ができる

4多くが誰とでも交流できる

3小グループ内でそれぞれ仲が良い

2不安で形成された小グループと孤立

1グループ間対立・孤立・裏面交流

⑤安定度　　5安定化　4固定化　3流動化　2不安定化　1混沌化

⑥活性度　　5創造的　4活用的　3遂行的　2停滞的　1不履行

⑦学級集団における優先事項

承　　認…生徒同士の配慮と関わりを心掛け、面談や観察を通して一人一人の認知を聞き取り、「本人が実践する場面」「他者から認められる場面」「本人が振り返る場面」を設定し、承認感を高められるように全職員で協働して指導や支援を行っている。(他者承認　→自己承認)　自分のやるべきことをやっている自己肯定感を高める。他者の意見を受け入れることに抵抗感がある生徒がいる。一人一人の意見を否定せず認め、違いから学び合う意識を持たせている。

被 侵 害…話し合い活動のルールは定着している。毎日の話し合い学活や協働学習を通して、不安や緊張感なく発言できるように段階的な学習を仕組んでいる。(個人の考えを形成→班や適したグループで交流→全体で交流) 他者の意見を聞いてから自分の考えを伝える話し合い活動を仕組んでいる。

学習意欲…学習に対しては個別に集中して取り組んでいる必要に応じて協働して学習に取り組んでいるが、自身の意見を伝えようとする意欲においては個人により差がある。個人に適した課題設定をさせ、良さを生かして自分に必要な学びを計画し、学習を進めていくこと(学習キャリアパスポート)で、意欲を向上させる工夫をする。

学習方略…課題解決のために適した(NRT・NINO・WEBQU 等のエビデンスを基に)自分の考えを形成し、他者と言語活動を行い、協働しながら知識を定着させ、一人一人の思考力・判断力を向上させる工夫をする。

⑵ 「班活動」における日常的な取り組み

安定した学級・班の形成は、生徒が自分の考えを自由に表現し、教科の目標を達成するための重要な基盤である。生徒同士が互いを尊重し、考えを認め合える学級集団づくりが求められている。WEBQU が目指す複線型の関係性を構築するために、班には以下の３つの機能を取り入れている。

① 一人一人の居場所づくり

QU(WEB)を活用して、生徒一人ひとりの認知を把握し、面談を通じて支援の必要性や配慮事項を明確にする。これらの情報は全職員で共有し、関わり方や配慮の方法について協働で検討・実践をする。また、定期的（短期）に学級満足度調査を実施し、生徒が班に「居場所」を感じているかどうかを確認している。

② 目標を達成する組織として機能させる

学級集団が多様性を認め合いながら、目標を達成する公共的な組織として機能することを目指している。生徒自身が課題を見付け、主体的に解決に取り組むことで、集団としての力を高める。課題達成後には、班員の入れ替えや班長の交代、生徒同士の「ゆるくつなぐ」交流機会を増やすことを通じて、人間関係が私的な関わりで固定されないよう工夫する。

③ 非認知能力を育成する

「居場所」や「組織」としての機能を通じて、生徒同士が互いの個性を認め合い、本音で感情を交わせる関係性を築く。これにより、公的な場面でも誰とでも関われる人間関係の構築を目指す。

⑶ 学習における生徒の実態

2学年は少人数学級であり、普段授業に参加している生徒は5名である。本学級は、記憶力と言語能力が高く、国語の学習において文章を読み取り、自分の言葉で表現することにつながっている。いっぽう、数的能力が低く、文章の結びつきや因果関係の理解に課題を感じることが多い。そのため、段落や場面ごとの結びつきを意識するために丁寧に文章の把握を行っている。

漢詩について、生徒は1学年で故事成語を学び、漢文に触れているが、漢詩というものに触れるのは本単元が初めてである。詩歌については、1学年「空の詩三編」や2学年「短歌に親しむ」の中で、表現技法や筆者が言葉に込めた思い、形式などに触れている。その中で、読み取った内容について自分で考え言葉としてまとめることはできるが、その内容を共有し、交流することに課題がある。少人数での学習であるからこそ、漢詩の読み取りにおいて、漢詩の内容や形式の特徴に触れ、それを踏まえてそれぞれが自分の考えを持って伝えながらも、他者の意見を認め合うための交流について考えさせたい。

3　単元構成・及び教材について

本単元では、第一時で単元の見通しを持ち、これまでの自己の学びや特性を生かしながら学習計画及び自分なりの課題設定を行う。そして、第二時で『漢詩の風景』の文章を読み、学習する意義を考えさせていく。そして、第三時・第四時では、自分で対象の漢詩から1つを選び、その漢詩の形式や特徴、筆者の心情を自分なりに捉えて、どんな風景とどんな心情が描かれているかを解説した「推し表現カード」の作成に取り組むことで、自分が着目した表現について「表現」「構成・展開」「リズム」の観点を明確にして分析し、表現について試行錯誤する力を育てたい。また、第四時・第五時では、作成した「推し表現カード」を基に仲間と交流を行うことで、同調と忖度なしに互いに意見を伝え合う力を育成したい。

4　単元目標

⑴作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。（言語文化⑶ア）

⑵現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。（言語文化⑶イ）

⑶観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えることができる。（C 読む⑴エ）

⑷言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）

5　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。	・「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。	・進んで漢詩の構成や表現の効果を考え、今までの学習を生かして解釈しようとしている。

6 NINO のデータを活用する　　◎強みの活かし方　　△課題の補い方

⑴　記憶力

◎ 既習の知識を思い出す …漢詩の形式（絶句・律詩、対句・押韻）や返り点のルール、語注の意味

◎ 既習の知識を活かす …　漢詩の形式の中にあるこれまでの漢文・詩の既習知識

△ 重要語彙や基本ルールをまとめておく。

⑵　言語能力

◎ 語彙の微細なニュアンスの違いを的確に捉える。

◎ 置き換えの比較を中心に、解説カードで論理的かつ豊かな言葉で表現する。

△ 言葉の意味を具体的な色見本や言葉の図解カードを作る。

⑶　数的能力

◎ 起承転結の構造や、対句・対比といった「条件の対応関係」「法則性」を論理的に整理する。

◎ 「前半２行（遠景・鮮やか）× 後半２行（近景・心理)」という表現構造の対比関係を図式化して分析する。

⑷　処理速度

◎ 教科書本文を素早く正確に聞き取ったり読み取ったりする。

◎ 文字を読むスピードやワークシート・カードへの記述、端末操作を素早く行う。

△ 活動に入る前に選択肢を示すことや、見通しを持たせる。

⑸　思考力

◎ 既習の学習内容（教科書本文の内容）と関連付けて考える。

◎ 漢字の意味や文脈、表現技法から筆者の意図や表現の意味を推測・要約する。

△ より具体的な質問やテンプレートを使い、思考のステップを小さくして考える。

7　指導と評価の計画

時	■ねらい　◆学習形態 数字：学習内容	○指導上の留意点	評価の観点		
			知	思	主
第一時	**■単元の見通しを持ち、これまでの自己の学びや特性を生かしながら学習計画及び、自分なりの課題設定を行う。** ◆一斉学習、個人学習 ・学習キャリアパスポートを使って単元を貫く学習課題と評価基準を確認する。 ・漢詩とは何かを知る。	○単元を貫く問い「「表現」から筆者のどんな情景や思いが想像できるだろうか」を共有する。 ・目指す資質能力を明確にし、生徒が動き出したくなるような課題設定を行う。			○
第二時	**■漢詩の基本ルールをマスターする** ◆個人学習、協働的な学び 語彙と形式の理解（知識・技能） ・絶句/律詩、五言/七言、対句/押韻を理解する。 ・音読と同時に、重要語彙の意味を押さえる。 ・それぞれの重要語彙から読み取れるリズムや表現を確認する。 ・漢詩から推し表現を決める。	○語注をただの「訳」として覚えるのではなく、その言葉が持つ独自のニュアンスに注意を向ける。 ○どこの情景に着目するかつなげるために言葉の意味から読み取れるものを確認する →最後に教員の読み取りを伝える。	○		

第三時	**■漢詩を選び、分析を行う。**				
	◆個人学習、協働的な学び 詩の「表現」「展開・構成」「リズム」という観点で分析する ・私の詩の分析：ポイントを絞って自分が気になった表現・言葉について分析する。（静夜思・江南春） 私の推し表現カードの記入 ・自身の考えをしっかりしたものにする。 ・他の人のカードで自身が聞いてみたいのところを考える。	○単に「情景を想像する」だけでなく、「その言葉があることでどんな効果が生まれているか」を記述させる。 ○どの観点で分析したのかを明確にして書かせる。 ○二つの漢詩（静夜思・江南春）の現代語訳を 2 点ずつ提示 ○仲間、1 人で、先生たち、参観者、本、インターネットなど複数の手段を用意する。 →これは自分で選ばせる。		○	
第四時　本時	**■選んだ漢詩について、表現の工夫や効果、読み取ったことを交流する。**				
	◆個人学習、協働的な学び 「推し表現カード」を作成する ・私の推し表現を選ぶ。 ・自分が選んだ詩の「表現」「構成・展開」「リズム」の観点を明確にして解説する。 ・交流（同じ漢詩・違う漢詩・来ている先生等） ・交流したことを基に推し表現カードを完成させる。	○「イメージ」の記述ではなく、「語彙→表現効果→作者の意図」という筋道立った論理的な解説になるよう指導する。 ○単なる訳の記述にならないように「着目した表現」とその効果を書くことを指導する。 ○仲間、1 人で、先生たち、参観者など様々な人と話す時間を設定する。 ○自分のカードを観点を意識しながら作成させる。		○	○
第五時	**■選んだ漢詩について、自分の考えや気づきをまとめる。**				
	◆個人学習・協働的な学び お互いの作品を読み合い、フィードバックする ・「どんな言葉に着目して風景を捉えたか」を伝え合う。 選んだ「推し表現カード」を基に漢詩の紹介をする。 ・	○相互鑑賞では「どの言葉に着目した分析が、説得力があったか」の観点でフィードバックさせる。 ○それぞれの選んだ表現がその漢詩全体にどんな効果を与えているかを踏まえながら漢詩全体について紹介し合わせる。		○	○
	■小テスト		○	○	

8　本時指導と評価の計画　　（全5時間中の第4時）

⑴ 日時：令和8年10月23日(金)5校時

⑵ 場所：2年1組教室

⑶ 本時の目標(単元を貫く学習課題)

「表現」から筆者のどんな情景や思いが想像できるだろうか

⑷本時の展開

過程	学習のねらいと学習活動	教師の指導・支援	評価・備考
導入	学習課題の確認 ・「自分の分析（語彙と表現効果）を相手に伝わる推し表現カードにまとめよう」という本時のめあてを確認する。 ・本時の学習計画の確認・見通しを行う。	・前時でまとめた「私の詩の分析」メモを手元に準備させる。 ・GKPを使い、自分の学習計画を確認させる。	・学習への意欲語彙の違いに興味を持ち、本時の課題に主体的に取り組もうとしているか。(机間指導・GKP)
展開	個人学習・相互参照 推し表現カードの作成 1. 語彙の根拠： 注目した特定の漢字・言葉 2. 表現の効果：その言葉があることで生まれる効果 3. 作者の心情：その効果によって引き立てられる作者の気持ち ※早く終わった生徒は次時の交流に向けて推し表現カードの読み合いを行う。	・Google スライドを活用し、[言葉] → [効果] → [気持ち]を書きやすくする。 ・現代語訳の丸写しになっている生徒には、「この中で杜甫が一番こだわった漢字（語彙）はどれだと思う？」と問いかけて言葉に注目させる。	・文脈における重要語彙の意味や働きを正しく理解して分析に活用しているか。（ワークシート・Google スライド）
まとめ	本時の振り返り ・分析した「言葉」と「その表現効果」を自分の言葉で1〜2文に整理する。 ・GKPで学習計画の振り返りを行い、次の時間の学習の見通しを持つ。	・自分のカードが根拠をもってポイントが描けているか、学習計画の見直しをさせる。	・振り返り言葉の効果に着目して自分の解釈を整理し、次の時間に向けた見通しを持てているか。（GKP）

※学習キャリアパスポート(GKP)・NINOを活用した評価と指導をする。

【国語科】 NINO：　思考力　記憶力　言語能力　処理能力　数的能力　　2年　　番　氏名

この単元で身につけるべき力	知識・技能 漢文特有の言葉遣いや調子など作品の特徴を生かして朗読するなどして古典の世界に親しんでいる。解説の文章を手がかりにして、詩の作者の思いを想像し、古人のものの見方、考え方について考えを深めている。	・訓読のきまりを理解し、漢文を書き下すことができる。 ・漢詩の基本事項を理解し、解説の文章を手がかりにして、古人のものの見方・考え方について考えを深めている。	
	思考・判断・表現 観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えることができる。	・解説の文章を手がかりにして、詩の表現に着目し、描かれた情景や作者の思いを想像している。	
	主体的に取り組む態度 言葉がもつ価値を認識するとともに、漢詩の構成や表現の効果を考えながら筆者の思いを想像して表現しようとしている。	・漢詩に描かれた情景や作者の思いを想像し、自分の考えを文章にまとめることができる。	

単元を貫く学習課題　　「　漢詩の風景　～「表現」から筆者のどんな情景や思いが想像できるだろうか～　」

学習の見通し	**0（　/　）**	**1（　/　）**	**2（　/　）**	**3（　/　）**	**4（　/　）**	**小テスト（　/　）　成果物の提出（　/　）**
	ガイダンス	・漢文のルールの確認	・漢詩の選択・分析・漢詩の読み取り・意見のまとめ・推し表現まとめ・カード作成・交流			
学習活動	一斉・個別・協働・（　　）	一斉・個別・協働・（　　）	一斉・個別・協働・（　　）	一斉・個別・協働・（　　）	一斉・個別・協働・（　　）	
(私の)課題設定						
学習計画						
課題についての振り返り						
自己評価(◎/○/△)						
本時の評価(◎/○/△)						

家庭学習では・・・

保護者印

(2) 授業で扱う漢詩

静夜思

原文

牀前看月光
疑是地上霜
擧頭望山月
低頭思故郷

書き下し文

牀前月光を看る
疑ふらくは是れ地上の霜かと
頭を挙げては山月を望み
頭を低れては故郷を思ふ

江南春

原文

千里鶯啼緑映紅
水村山郭酒旗風
南朝四百八十寺
多少楼台煙雨中

書き下し文

千里鶯啼いて緑紅に映ず
水村山郭酒旗の風
南朝四百八十寺
多少の楼台煙雨の中

(3) 授業スライド

漢詩の風景

～私の推し表現を情景カードで紹介しよう～

単元のポイント

漢詩のよみ方「訓読」を改めて学び、
自分でよめるようになる。
漢詩の表現の仕方や構成を知り、
描かれた情景や心情を想像する。

日本の文化に大きく影響を与えた「漢詩」。漢詩をよみ味わえるように
なることで、己の言葉の世界を、さらに奥深いものにできる
……かもしれない。

単元の流れ

○訓読の仕方を復習する。

教科書P158 1～や便覧P126を参考に、国語のワークP110やスライドに取り組み、漢文の読み方を振り返る。

○漢詩について知る。

（一斉でやります！不安な人は国語のワークP111で確認を！）

単元の流れ

○漢詩を読み、味わう。

・教科書P158～「春暁」「絶句」「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」を音読する。※協働し、読めているかをお互いにチェックする。

○表現を選び、「表現」「展開・構成」「リズム」の観点で分析する。

・「推し表現カード」を作成する。交流し、表現についての考えを広げる。

漢文の復習・漢詩について

○漢文の基礎知識の復習
①（ 博文 ）・・・漢文の原文
②（ 訓読文 ）・・・①に訓点（送り仮名・句読点・返り点）をつけたもの
③（ 書き下し文 ）・・・漢字かな交じりの日本語に直したもの
・①→③の流れを（ 訓読する ）という。

漢文の復習・漢詩について

・返り点
①（ レ点 ）・・・すぐ上に返る
②（ 一・二点 ）・・・飛ばして返る
・書き下し文
①送り仮名は（ 歴史的仮名遣い ）のまま、
（ ひらがな ）に直して書く。
②「不（ず）」などの助詞、助動詞にあたる漢字は（ ひらがな ）に直して書く。
③読まない漢字（ 置き字 ）は書かない。

漢文の復習・漢詩について

○漢詩の基礎知識
・形式（文字数が一定の定型詩）
①（ 絶句 ）・・・四句からなる漢詩
一句が五字→ 五言絶句
一句が七字→ 七言絶句
②（ 律詩 ）・・・八句からなる漢詩
一句が五字→ 五言律詩
一句が七字→ 七言律詩

・構成（起承転結）
第一句：起句　第二句：承句
第三句：転句　第四句：結句
・対句・押韻
対句：意味や読み、文法構造の点でよく似た配列にすること
押韻：句の最後などを同じ音でそろえること

3. 作者はどんなことを感じているだろうか。(心情)

春暁……

絶句……

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る……

詩の表現に注目して考えてみよう！

○表現を選び、「表現」「展開・構成」「リズム」の観点で分析する。

・漢詩の中から自分が気に入った表現を選び、その表現について漢詩に与える影響を「表現」「展開・構成」「リズム」の観点で分析してみよう！

詩の表現に注目して考えてみよう！

「表現」：漢詩で表現した情景に与える影響や強調したい表現の観点

「展開・構成」：文章を組み立てるための骨組み（構成）や話の流れ（展開）の観点

「リズム」：言葉や詠んだ時のテンポなど詩のリズムの観点

詩の表現に注目して考えてみよう！

○流れ

1　漢詩の中から好きな表現を選び、個別で分析し、考える。

2　私の「推し表現」カードに表現について考えたことなどをまとめる。

3　同じ班の人と交流し、私の「推し表現」カードについて、話し合う

4　交流したことを基に私の「推し表現」カードを完成させる

詩の表現に注目して考えてみよう！

分析メモ

私の「推し表現」カード　2年（　　）

題名：静夜思 ・ 江南春　　作者：　李白 ・ 杜牧

選んだ表現：

選んだ理由

【使われている表現や構成・形式】

【この表現が詩にどのような効果を与えているのか】

(4) ワークシート等

推し表現カード　　２年（　　）

題名：静夜思 ・ 江南春	作者：　李白 ・ 杜牧
選んだ表現：	
選んだ理由	
【分析する観点と分析内容】	
【この表現が詩にどのような効果を与えているのか】	